

平成30年度

第2回在宅医療・介護連携推進協議会

会議録（要旨記載）

日時：平成30年9月26日（水）午後1時30分～

会場：湖西市健康福祉センター3階

小会議室

## 1. 出席者

### 委員

伊藤 健（浜名医師会）  
牛田 知宏（浜名医師会）  
藤田 周子（湖西市医会）  
塩野 州平（浜松市薬剤師会）  
内山 大輔（介護老人保健施設まんさくの里）  
鈴木 織江（浜名病院地域医療連携室）  
夏目志津子（市立湖西病院在宅支援室）  
白井 寿子（訪問看護ステーションはまな）  
松井 喜恵（湖西市訪問看護ステーション）  
内藤加代子（地域包括支援センター湖西白萩）  
浅井 恵子（ケアプランセンター陽菜）  
稲本 直子（サンシティあらい）  
安間 明美（湖西市社協介護センターこさい）  
山下いづみ（浜松市医師会 在宅医療推進員）

尾崎 宏嘉（浜名歯科医師会） 欠席

### 事務局

村田 義治（健康増進課長）  
佃 祐子（健康増進課課長代理）  
石田 裕之（長寿介護課課長）  
藤田 和之（長寿介護課係長）  
琴岡 文乃（長寿介護課主査）  
白井まり子（在宅医療・介護連携支援センター相談員）

## 2. 会議次第

開会 挨拶

議事

- (1) 在宅医療データベース調査項目について                     ・・・別紙1
- (2) お助けブック修正追加内容について
- (3) 市民への在宅医療普及実施計画について                     ・・・別紙2
- (4) 湖西市版エンディングノート作成について
- (5) 湖西市の在宅医療介護現状分析と強みと弱み                     ・・・別紙3
- (6) 連携支援センター愛称について
- (7) その他

連絡事項

- ・次回予定：湖西市弱みの一つ 「在宅医療利用者急変時の病院受診の現状」について意見を交わしたいと思います。事例等踏まえた現状やこんな体制が整えばいい等ご意見ご検討をお願いいたします。
- ・要旨議事録の配布について：メールで配信後 1 週間以内に確認いただき、訂正連絡がなければ配布及び公開いたします。

次回案内

次回 11 月 22 日（木）予定   11 月 29 日（木）予備日

### 3. 会議内容(要旨記載)午後1時30分開会

1. 開会あいさつ	伊藤会長) 只今より第2回在宅医療・介護連携推進協議会を開催する。 「湖西であんきに暮ら住まい」をめざしての議事進行に協力を願う。
2. 議事	
(1) 在宅医療データベース調査項目について	事務局説明(資料1参照) 在宅医療対応医療機関情報アンケート調査について依頼。 赤字部分を追加修正。 医科: 昨年度の訪問診療実績及び看取り実績追加 医師会でも同時に調査するため昨年度の死亡診断書作成数、警察協力 医検死数(非公開とする)を追加。 歯科: (尾崎委員欠席) 前年度訪問歯科診療実績追加。 薬科: 前年度訪問薬剤指導実績追加。認定薬剤師の有無、種類欄追加。 得意な分野が解ると連携時に相談しやすいと考える。 施設: 現時点では修正、追加なし。 山下委員) 医科の診療所区分について、浜松市医師会は若干修正した。 診療所区分届出があるか、ないか等。診療所区分届出があれば一定の 基準は満たしていると考えられる。 伊藤会長) 表項目浜松市医師会と同じでよい。簡潔にということで。 事務局) 了承。 塩野委員) 認定薬剤師の件お礼。わかりやすいと思う。薬剤師会で基 本情報等追加検討中。詳細は12月後半となる。 このアンケートの締め切りまで間に合わない。後日連絡する。 事務局) 薬科については連絡待ちとする。 伊藤会長) 施設についてはアンケートから現状を把握するように。後 日会員に配る。協力をお願いする。 藤田委員) 薬科訪問指導は在宅訪問と考えてよいか? 塩野委員) そのように考えてよい。
(2) お助けブック修正追加内容について	事務局) 協議会、主にワーキンググループで詳細修正を行う。 一同) 現時点での修正、追加はない。 塩野委員) 薬局リスト(C-3)について、管理薬剤師は頻繁に交代 するため名前は載せなくてもよい。薬局には必ず管理薬剤師がいる。 事務局) 了承する。
(3) 市民への在宅医療普及実施計画について	事務局説明: 医師会への委託事業として市民向けに開催。(資料2参照) 牛田委員) 年間を通してかかりつけ医の普及及び講演会を実施する。 在宅医療利用時にスムーズに利用可能な環境を構築する。

<p>(4) エンディングノート作成について</p>	<p>「在宅で安心して暮らすために」とし、在宅医療の情報（訪問診療や訪問看護等）を伝える。2月に講演会を開催する。新居地域センターにて最大120名規模で1.5時間位の予定である。講師調整中。後で出てくるエンディングノートを配布できたらと思う。</p> <p>事務局）前回、協議会委員の皆さんから頂いたご意見を参考に医師会牛田委員と検討。</p> <p>「在宅で安心して暮らすために」が基本テーマ。</p> <p>1回目は在宅療養を知ることから開始しその後はシリーズ化の予定。日程は未定。</p> <p>伊藤会長）市民は「在宅医療ってなに？」という現状。一からわかりやすく説明をするところから実施。市民へ在宅というものを知らせ、最後は「大往生」というところまで進めたい。</p> <p>事務局説明）</p> <p>市は協議会等の会議意見の中でエンディングノートについて意見や希望があったため検討開始。業者協働で市費負担なく作成できる募集に応募し作成を進めている。県内でも実施市町あり。2月の講演会の際に配布できるようにしたいと考えている。A4の無料の冊子。業者作成のもので広告が入る。2ページは市で作成し独自性を生む。まず費用負担なく作成するものから始め活用していく。活用していく中で必要な項目や修正等意見反映を重ねる。</p> <p>伊藤会長）他にエンディングノートについて知識・報告ある方。</p> <p>山下委員）浜松市医師会はリーフレットのみ作成した。それは公の機関がこのようなことをする際、地域熟知が推測できないためいろんな反応を示されるということがありリーフレットにとどめている。特殊かもしれないが京都市と関係団体が作成した際、市に、「治療の中断を推奨するのか？」等の反発が出たと聞いている。その時は回収せず広めていかなければならないものということで現在も継続されている。事前指示書が折り畳まれていたため、強く反応があったのではないかと推測される。そのため浜松市医師会はこのことが必要だという内容にとどめリーフレットを作成した。他に宮崎市は、医療関係者に倫理コンサルテーションを勧めていこうとする研究者がいる。そういう専門職の力を借りて、市として作成していると聞いている。更に宮崎市では、配布時もエンディングノートの使用方法について熟知しているボランティアにより地域の皆さんに普及出来るようにしている。前橋市医師会も「私の人生ノート」とし、生活全般ではなく最後の医療の選択中心。浜松市医師会も医師会なので医療にしばって検討して</p>
----------------------------	--

いこうとしている。今市民の感情がどこにあるのか理解できないからこその発信ということで市民啓発の推進ツールとなるのならそれもある。広告が多いのは違和感がある。

伊藤会長) 市民の方がどこまで活用するかということである。幅広いのは確か。広告は確かに気になるが、医師会としては市民の皆さんが人生の最後を自分で決めるようにしてほしいと考えており、病院からの要望もある。医師会としても病院としても医療の実施選択は判断のできるうちに本人家族にしてほしいと考えている。その判断がしやすいエンディングノートにしたいと思う。単なる治療拒否にならないようにも配慮は必要。

事務局) 基本パッケージはあるが、途中経過を報告する。広告については市の広告の規定に沿って審査は行う予定でいる。

山下委員) 急がないほうが良いと思う。2月に間に合わせる等はしなくて良いのではないか。浜松市医師会は2〜3年話し合いの機会を持って、やっとリーフレットを作成した。推し進めた方がよい場合もあるが、急がなくてもいいのではという気もする。

伊藤会長) 熟成していくという考えということですね。いきなりエンディングでなく一人一人、その人の気持ちを日記につづるような説明などから開始する方法もある。

事務局説明) 基本のエンディングノートも会長が示したような機能を持っている。配布方法も検討し講演会等で配布や市民啓発の際に配る等検討。講師の方に触れて頂きその後配布、補足するような形にしたい。現在無料作成募集に応募して協定を結び実現に向け詰めている状況である。作って配ることが約束である。「作る必要がある」から始まり現在進行している。

山下委員) 作らないという選択肢はないのですね。

牛田委員) 県医師会からも話が出て湖西市はどうかと質問を受ける。これをテーマにした研修会も開かれている。予算の面等考慮しながら保留と話はしてある。しかしエンディングノートに全く触れずに行っているものか。今回市からこのような提案があり経済面も問題ない。特に急いでいるわけではないが市のページもあり独自性もあり進めているのではないか。2月配布は可能ならであり急いでいるわけではない。懸念部分の配布方法等は検討しながら対応可能である。まずは作成し取り掛かっていくということである。推進していく内容なので、作らないという選択肢はないと思っている。まずはこのような話が立ち上がったという報告。懸念内容も検討していけると思う。

伊藤会長) 牛田委員は認知症も手掛けているのでそういう面からも早

<p>(5) 湖西市の在宅医療介護現状分析と強み弱み</p>	<p>く取り組むことも理解する。呆けてからでは作成できない。考えられるときにその機会をとという考え。急ぎに感じるのか。</p> <p>牛田委員) 急いでいるわけではない。予算の問題もある中、まず経済面でも心配なく、湖西市の内容も掲載できるいい提案だととらえている。作らないという選択肢はなく何もしないよりはまず、取り組みは進めて行きたい。</p> <p>伊藤会長) 湖西市の2ページ部分の内容も見せていただき進捗状況を報告してください。湖西市として作成していくということをお願いしたい。</p> <p>事務局説明(資料2) 赤字が追加修正部分。特に赤字読み上げ。特に気になる部分として利用者、住民の高齢化だが、高齢者が増えているのに認定率が増えていないのは湖西市の強み。</p> <p>質的充足のプロセスの部分に主介護者離職率を追加。</p> <p>在宅医療列では訪問看護の新規利用者が多い。医師年齢追加。</p> <p>訪問診療自給率は県と相談中。レセプト参照分析するもの。出来る方向で調整予定。</p> <p>多職種間の連携ではお助けブックの作成配信開始。在宅医療介護の為に相談窓口(在宅医療介護連携支援センター)設置追加。</p> <p>(アウトカム=達成される目標) 追加項目は</p> <p>前年度同様の介護離職者が減る:主介護者離職率。</p> <p>訪問診療自給率が上がるよう目標を追加。</p> <p>強み:お助けブック作成、配信により効果を得ることが出来る。</p> <p>在宅医療取り組む診療所、歯科、薬科の確認が容易。</p> <p>連携に必要な様式、ルールが解る。</p> <p>退院支援の流れが見える化され多職種にも理解しやすい等。</p> <p>弱み:在宅医療利用者急変時、医療体制が不十分。</p> <p>医師会内在宅医療部会ないこと。</p> <p>在宅医療を支える支援体制がなく参入する医療機関の負担が多い(器材、保険請求、時間等)。訪問診療を行う医師が少ない。</p> <p>24時間体制未確立等追加</p> <p>伊藤会長) 弱みが多い。仕方がないことも多いが、介護離職の問題も含め可能な限り解決したい。今の在宅医療で一番不安は夜中の急変でどこの病院へ預けるべきかの体制。例としてガン末期者退院後の看取りで、夜中の急変で家族もあわてて元の病院へ連れて行ってしまいうケースがあり難しいことが多い。病院と診療所が連携する場が必要か。会議を持つとか医師側としてはそのようなところか。</p>
--------------------------------	---

	<p>藤田委員) 訪問診療所が少ない。湖西市の在宅医療を支えて行く上で一番の弱みである。</p> <p>高齢化の問題もあり提供する側の力の問題を感じる 24 時間体制云々以前の問題だと認識。現在の提供側の力の中では不十分で今までのやり方ではいけないのかもしれない。医者同士の中で勉強できる取り組みも必要か。そのなかで情報連携としてシズケアかけはしの活用は有用かもしれない。しかし推奨しているが医師の間でニーズとして必要性を感じていない医師も多いため共通認識を持つような働きかけも必要かと感じる。訪問看護も忙しい中で動いている。横のつながりと縦のつながり両方一緒に進めていかないと厳しいと感じる。</p> <p>伊藤会長) 現実の力のなさの中で進めて行かなくてはならないが現状厳しい。訪問看護のニーズも高いが現状はどうか？</p> <p>松井委員) 在院日数の減少で医療ニーズの高い利用者が増えている。病院からの依頼は増えている。「受け入れ先はないか」と聞かれる。麻薬の管理が出来る診療所となると限られる。湖西市の診療所で枠がなく他市の訪問診療医に依頼した件がある。「仕方がないので入りましょう」と。利用者は増えているが受け入れられる市内の医療機関が少ない現状</p> <p>伊藤会長) 他市の在宅対応医が対応してくれている現状ということですね。在宅診療医不足は湖西市の弱みの部分である。外来しながらの訪問診療は難しさがある。危機感を感じる。</p> <p>藤田委員) このような内容・危機感を医師会内で共有できていない。毎回医師会内で話題を振るか。</p> <p>伊藤会長) 強み弱みについてはまた委員にアンケートというか意見をきいてみてほしい。</p> <p>事務局) 了承</p>
(6) 連携支援センター愛称について	<p>事務局説明) 平成30年7月開催の協議会の際に発案あり。案読み上げし投票。(委員2票・事務局1票を投票)。</p> <p>愛称 <span style="border: 1px solid black;">縁(ゆかり)</span> 決定。～縁を結ぶ～</p> <p>委員) 了承。</p>
(7) その他	<p>伊藤会長) 次回弱みの一つ在宅医療利用者の急変時体制について意見を交わしたい。そこで地域医療・連携についての取り組みも知りたい。市の地域医療担当課の意見や説明も聞きたい。よろしくお願ひしたい。今後議事録配信し1週間後変更連絡なければ配布配信とする。</p> <p>伊藤会長) 次回開催は11月22日(木)13:30～とする。閉会。</p>



